

資料に親しむ会 令和5年度第6回

「慶応4年の目安箱 一御一新と民衆の声ー」

京都府立京都学・歴彩館職員が「慶応4年の目安箱 一御一新と民衆の声ー」を、下記のとおり開催しました。

記

- 日 時 令和5年10月10日（火）午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール
- 参加者数 76名
- 内 容 前半は、歴彩館が所蔵する慶応4（明治元・1868）年の「箱訴（目安箱）」について、その制度や意義について説明した後、実際に投書された訴状を事例に状況や時代背景を説明した。
後半は、「箱訴」や「函訴検閲録」の現物を参加者に見ていただきながら解説をした。

■ 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）

- ・ 現物を開いての解説はとりわけよかったです。
- ・ 箱訴の実物を見ながら、説明を聞いたのがよかったです。訴え出る人の筆跡に息遣いが伝わってくるようです。
- ・ 箱訴について京都の人々のリアルな声がつづられてよいと思います。
- ・ 実物の箱訴をめぐって紹介していただき、とても貴重な経験となりました。「検閲録」をみて、当時の担当者が丁寧に対応しているのを確認して胸をうたれる思いがしました。

（講座の様子）

